

2023年度

事業報告書

2023年1月1日から

2023年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

震災から12年を経て変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、相馬市・南相馬市を中心に福島県浜通りの子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・ 復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フオロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市において継続的に支援を実施、現在は南相馬市の小中学校にて活動を継続している。
- ・ 震災から12年が経ち、子どもたちは震災時が未就学年齢であったこともあり震災による一次的なストレス反応はほとんど見られなくなっている。しかし、地域コミュニティの崩壊、家庭環境の変化などの現状を受け止めながら学生生活を過ごしている。保護者の中には生活の格差が生じていたり、生活が影響（一人親、外国籍、保護者の疾患（精神的）、複数回離再婚、生活保護など）している子どもたちにとっても、まだまだ先の見通しが立たない不安感と焦燥感がある。地域コミュニティの崩壊が及ぼす影響もみられ、不満の矛先は学校に向けられることもある。子ども以上に環境に順応するためのストレスを抱えていてメンタルケアが必要な状態になっている。保護者のストレスは子どもの発達や感情を阻害する要因ともなるため、保護者のメンタルケアは子どもたちが健やかに成長していくうえで今後さらに必要となってくる。また、発達障害を有する児童生徒に対する適正な対処が求められるが、対応が後手に回りやすく、十分な対応ができていない場面も見られる。教員は人間関係や保護者との関係、生活習慣の変化等でストレスを抱えている子供たちに対し、さらには保護者に対しても専門的なアセスメントと支援・対応が必要となってきていることからより専門性を有した人の支援を必要としている。
- ・ 2023年度においても南相馬市から継続の要請を受け、支援を継続した。
- ・ 世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行った。

カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	7名体制、年間で24回（月2日×12ヶ月）実施。一部の学校は年間で48回実施（月4日×12ヶ月）
備考	<p>【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO 法人 星槎教育研究所、学校法人 国際学園</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年度より継続実施 ・2015年3月までの相馬市内でのカウンセリング累計数は、生徒：750件、教員：355件、保護者62件 ・2023年度の南相馬市でのカウンセリング件数は、生徒：742件、教員：81件、保護者62件 ・2023年度までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、生徒：5,913件、教員：662件、保護者738件 		

(2) スポーツ交流

- ・福島県相馬市において子どもたちを元気にするため、子どもサッカースクールおよびサッカー指導講習会の開催についての要請を受け、世界子ども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2021年1月は開催が中止、2022年1月は2年ぶりの開催となったが、またも急速に拡大した感染の影響を考慮し、首都圏からスタッフが現地に行くことは断念せざるを得なかった。2023年はようやく、以前と同じようにスタッフも参加し開催することができた。
- ・世界子ども財団は、事前準備として本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）および一部経費負担等の支援活動を行った。
- ・当日は相馬市の子どもたちを中心に8チーム85名が参加した。

スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
・子どもサッカー大会	福島県相馬市	・小中学校の児童・生徒（8チーム85名参加）	2023年 1月14日、15日
備考	<p>【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学校法人 国際学園</p> <p>【実績】 2011年度より継続実施</p>		

(3)東日本大震災関連のその他の活動

- 東日本大震災発生以降、被災地のこどもたちへの支援で中心的な役割を果たしてきた星槎グループの職員が2023年に「一般社団法人 Dream Forest Supporters」を設立し、福島県大熊町の学童保育の運営を担い、活動を開始した。世界こども財団もこの活動に協力するために、学童の現場で不足している遊具やおもちゃなどの募集を開始、6月に現地へ届けた。

(4) その他の各地での災害等への支援

- 2023年2月6日にトルコ南東部を震央として発生しトルコ共和国と隣国のシリア・アラブ共和国において甚大な被害をもたらしたトルコ・シリア地震復興支援のために緊急募金活動を実施し、6月30日に駐日トルコ共和国大使館を訪問、一等書記官と面会の上義援金102,000円を贈呈した。

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国を中心に支援を実施する。

2 支援事業の概要

- 2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け中断していたプログラムの見直し、整理を行っている。なお、ミャンマー連邦共和国への支援は2022年3月のスポーツ留学生のプログラム修了を持って一旦の区切りとし、2023年度は実施しなかった。
- エリトリア国およびブータン王国において現在継続中、または懸案となっているプログラムおよびその経緯は下記の通りであり、引き続き確認を行っている。
- 2023年8月に世界水泳大会が福岡で開催され、ブータン王国の選手2名が出場した。それに合わせ職員が現地入りし選手団のサポートを行ったほか、帯同し来日したブータンオリンピック委員会事務局長と面会、今後に向けての協議を行った。
- 2023年度より新規事業としてウガンダ共和国にある KOMOREBI 小学校のインフラ整備支援を開始し、12月には職員が現地訪問視察、協議および現地行政との連携協定締結を行った。
- エリトリア国

エリトリア国に関しては下記のプログラムを検討中として2023年度事業計画書に記載したが、2023年度中に具体的な進展は見られなかった。次年度以降は中止も含め、引き続き検討する。

①Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	Unicef 選定のモデル校および周辺コミュニティ
経緯	2018年1月のエリトリア国訪問時に、Unicef エリトリアより現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め協働の要請を受けた。その後、2019年10月に第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始したものの、2020年以降、現地Unicef 事務所の活動停止により、ペンディングとなっている。
備考	【協働者】Unicef エリトリア

② スポーツアカデミーの運営支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	首都アスマラを中心とする青少年
経緯	2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーの開設は、エリトリアの子どもたち、青少年に安全・安心な環境で教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技トラックの破損がひどくその修繕支援を2018年度に実施した。新型コロナウイルスの影響で2020年以降は具体的な支援に至っていない。
備考	【協働者（機関）】エリトリア国文化スポーツ庁、同陸上競技連盟

③ エリトリアでのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やエリトリア国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。今後の方針については文化スポーツ庁および関係各所と協議の上検討。
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園 【実績】 2019年度 アスマラマラソン開催支援 2020年度 東アフリカハーフマラソン出場支援 2021年度 オリンピック・パラリンピック出場支援

④ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、同国初のパラリンピック大会出場を目指し、アスリート1名の支援を行ったが、同大会への参加は叶わなかった。2021年に同国パラリンピック委員会が正式認可されたことから、今後について現地のニーズを把握した上で検討。
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同パラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟 【実績】 2020年度 ロサンゼルスマラソン出場支援（車いすマラソン）

・ ブータン王国

ブータン王国においても下記プログラムが懸案となっているが、②の項目において、2023年に世界水泳に出場したブータン代表選手のサポートを実施した。

① スポーツスクールの運営支援	
支援対象地区	支援対象者
ブータン王国	公立・私立選定協力校
経緯	2019年10月、ブータンオリンピック委員会、並びに教育省との共同プロジェクトチームより、ブータン王国にて開校予定のスポーツスクールへの運営支援、および星槎グループ並びに日本国内公私立高校への視察・調査における協力および支援の依頼があった。このスポーツスクール開設の主な目的は、アスリート達が特定の競技に早期から取り組み、日常的に練習が可能となることによる国際競技力向上および安定維持である。2020年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツスクールの開校予定も延期を余儀なくされた。同国ブータンオリンピック委員会と引き続き協議の上支援について検討。
備考	【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、同オリンピック委員会、学校法人 国際学園

② ブータンでのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援	
支援対象地区	支援対象者
ブータン王国	当該国アスリートおよび関係者
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やブータン国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。2023年度は8月に福岡で開催された世界水泳2023にブータン代表選手2名が出場、現地に赴き大会参加支援を行ったほか、ブータンオリンピック委員会事務局長との協議を実施した。今後の方針については同国オリンピック委員会および関係各所と協議の上検討。
備考	【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園 【実績】 2019年度 ツアー・オブ・ドラゴン（自転車競技大会）開催支援 ブータン国際マラソン開催支援 2020年度 ブータン・日本リモートアーチェリー大会開催 ブータン・日本リモートインドアアーチェリー大会開催 ライフル射撃用具寄贈 2021年度 ブータン国際マラソン開催支援 オリンピックデー開催支援 東京オリンピック大会事前キャンプ受け入れ・大会参加支援 2023年度 世界水泳福岡2023 大会参加支援

③ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援	
支援対象地区	支援対象者
ブータン王国	当該国において身体および知的障がいを持つアスリート
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、パラリンピック委員会の設立、アスリート育成、事前キャンプ受け入れ等の支援を継続してきた。パラアスリート3名がブータン史上初のパラリンピック大会出場を果たし、東京大会が無事に終了したことから、今後の支援については現地のニーズを把握した上で検討。
備考	【協働者（機関）】 ブータンパラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人国際学園 【実績】 2019年度 ブータン・パラリンピック・フェスティバル開催支援 福祉車両2台の寄贈、パラスポーツ用品寄贈 2021年度 東京パラリンピック大会事前キャンプ受け入れ・大会参加支援

・ウガンダ共和国

2023年度後期より新規事業として開始した。

KOMOREBI 小学校のインフラ整備支援	
支援対象地区	支援対象者
ウガンダ共和国 オモロ県	KOMOREBI 小学校に通う児童および周辺コミュニティ
経緯	ウガンダの北部にあるオモロ県において、日本（NPO 法人五条クラブ）とウガンダの人々が協力して設立した KOMOREBI 小学校の支援を行うこととなった。オモロは雨季と乾季の気候の変化が激しく、雨季には川が増水して道が冠水するため子どもたちは道を通れず、学校に行けなくなってしまうため、KOMOREBI 小学校のインフラ整備を支援するため、「ウガンダに橋をかけよう！」プロジェクトをスタートした。子どもたちが安全に通学するための橋の建設や教室の増設、さらに交流事業など長期的な活動を行なっていく。 2023年度は11月にクラウドファンディングをスタート、ウガンダ大使館を訪問しプロジェクトの説明、協議を行なった。 12月には世界子ども財団の職員が現地へ渡航し、現地自治体と五条クラブ、世界子ども財団の三者で連結協定を締結した。クラウドファンディングは12月末までの期限内に目標寄付額の500万円を突破することができた。2024年度はさらに協議を重ね、橋の建設を目指す。
備考	【協働者】 ウガンダ共和国オモロ県、NPO 法人五条クラブ

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国、マリ共和国との国際相互理解を図るため、当該国より陸上競技をはじめ各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。また、異文化理解・友好関係の構築を目的とするイベントの開催、当該国からの学生の短期受け入れも実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ エリトリア国より、陸上競技およびバスケットボールに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。陸上においては、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2017年より開始し、これまでに高校生・大学生合計12名を受け入れている。
- ・ 2022年度3月に、2名が高校を卒業した。1名は帰国し、1名は星槎道都大学に進学、支援を継続。
- ・ 2022年度5月に、エリトリアスポーツ奨学生6名（陸上競技高校生男女4名＋バスケットボール競技男子2名）の受け入れを開始した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2年遅れでの入国となったが、渡航前から受け入れ予定校と連携し通信教育の形でレポート等の課題を提供、待機中も現地で取り組みを継続し、2022年度より日本での1年間のプログラムとして招聘を行ない、2023年3月に高校を修了した。うち1名は埼玉県の大学より陸上競技の特待生として招かれ、進学し引き続き日本で活動している。
- ・ 2023年度9月に、第一期生として来日したスポーツ奨学生1名（陸上競技）が星槎大学を卒業。陸上選手としてのキャリアを継続するため日本に企業へ就職した。

留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア国 文化スポーツ庁 陸上競技連盟	(継続) 高校生6名 大学生3名	2017年より継続
備考	<p>【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南、星槎大学、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、公益財団法人 日本陸上競技連盟、公益財団法人 日本オリンピック委員会</p> <p>【実績】 2017年度 高校・大学留学生の受け入れを開始。 2019年度 1名が高校を卒業し星槎大学へ進学。 2021年度 1名が高校を卒業し星槎道都大学へ進学。 星槎国際高校湘南に2名、星槎道都大学に1名、星槎大学に1名が在籍。 1名が9月に星槎道都大学を卒業、11月より星槎グループ職員として勤務を開始。 2022年度 2名が高校を卒業し、うち1名が星槎道都大学へ進学、1名が帰国 6名を星槎国際高等学校湘南にて新規受け入れ（1年間のプログラム） 2023年度 6名が星槎国際高等学校湘南を卒業 1名が星槎大学を卒業し、日本の企業へ就職</p>		

(2) ブータン留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ ブータン王国より、陸上・アーチェリー・射撃・柔道に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。いずれの競技においても、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。将来的には、日本で取得した学歴をもとに世界に羽ばたく人材を育成する。選定については、現地オリンピック委員会との協議の上行う。
- ・ 2022年度は、在籍中の星槎大学1名（陸上短距離）、星槎道都大学2名（柔道）の受け入れを継続した。
- ・ 2023年度は、3月に2名（柔道）が星槎道都大学を、9月に1名（陸上競技）が星槎大学を卒業した。3名は全員ブータン王国へ帰国し、柔道および陸上競技のナショナルチームへ所属。2023年のアジア競技大会に出場したほか、現在自国を代表し数多くの国際大会へ出場し、ブータン王国のスポーツ振興活動の中心を担う人材として活躍している。
- ・ 星槎道都大学の柔道留学生2名の卒業に合わせ、日本で4年間、一度も帰国せず懸命な努力を重ねた2名の晴れ姿を母国のご家族に見ていただくことを目的に当財団として初のクラウドファンディング企画「柔道の世界大会に出場したブータン出身の奨学生のために、母国にいる家族を卒業式に招待したい！！」を実施、目標金額70万円を達成し、3月13日から19日にかけてそれぞれのご家族2名を日本に招待、卒業式に出席いただいた。

留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ブータン（MoU締結後ブータンオリンピック委員会と協議の上決定）	（継続）大学生3名	・2018年より継続
備考	<p>【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益社団法人全日本アーチェリー連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本卓球協会、公益財団法人日本水泳連盟等</p> <p>【実績】 2018年度 陸上1名・アーチェリー2名、星槎国際湘南で受け入れ開始。 2019年度 星槎国際湘南から1名卒業、星槎大学へ進学。 新規柔道2名、星槎道都大学で受け入れ開始。 2020年度 星槎国際湘南2名卒業、帰国。 2023年度 星槎道都大学2名（柔道）、星槎大学1名（陸上）卒業、帰国。 卒業生クラウドファンディングの実施</p>		

(3) マリ留学生（高校）の受け入れ

- ・ マリ共和国より、バスケットボールに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・マリ両国の友好に貢献できる人材を育成する。
- ・ 2023年5月より、スポーツ奨学生1名の受け入れを開始した。留学生は星槎国際湘南の1年

生として入学し、男子バスケットボール専攻に所属。公式戦にもデビューしチームの即戦力として活躍している。アスリートとして成長していることはもちろん、日本語の学習にも励み、徐々に日本語で意思疎通ができるようになってきている。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	マリ共和国	(継続) 高校生1名	・2023年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南 【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、駐日マリ共和国大使館		

(4) Seisa Africa Asia Bridge (SAAB)への開催支援および後援

- ・学校法人国際学園、学校法人星槎、および SEISA Africa Asia Bridge 実行委員会共催、世界こども財団後援の上記イベントが今年度も継続して開催された。目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりが出来ることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展することを行っている。
- ・2023年、第9回となった SAAB では、ようやく入場制限なしの開催が可能となり、引き続きオンラインでの配信とあわせたハイブリッド形式で開催した。生徒や19カ国の大使館関係者ら約6千人が参加した。世界こども財団はプログラムの実施やブース運営、また大使館関係者とのコーディネート業務を担当した。

SAAB 開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
SAAB 2023 の後援	国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々	来場者、視聴者、および参加生徒等	11月11日
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、一般社団法人 星槎グループ、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）、アフリカ各国の駐日大使館 他 【後援（機関）】 外務省、文部科学省、神奈川県、横浜市、小田原市、芦別市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市国際局、横浜市教育委員会、小田原市教育委員会、芦別市教育委員会、JICA 横浜、ヨコハマ SDGs デザインセンター 【実績】 2015年より毎年開催		

(5) 国際理解促進のための教育機関での出張授業プログラム・交流プログラム

- ・2022年度より、新規事業として、世界こども財団職員を高校に定期的に派遣し、国際理解教育を支援する取り組みを「出張授業」として開始した。本取り組みでは、まずは学校法人国際学園の2学校（星槎国際高等学校八王子学習センター、同立川学習センター）において、ブータン王国のプログラムを担当する職員により、ブータンをテーマとして文化を学び、特に食文化に着目して生徒が主体となってキッチンカーを運営するゼミ等を実施した。また、生徒の国際貢献を促すべく、生徒会と連携しての募金活動や、不要品回収の活動等を実施した。

- ・また、アフリカ・エリトリア国出身で当財団のスポーツ奨学生プログラムを卒業したのち、職員となった者を中心にエリトリアの文化紹介・交流プログラムを開始し、2022年10月に浜松にて現地の商店街と高等学校（星槎国際高校浜松学習センター）がコラボレーションして行った文化祭に出展したほか、継続プログラムとして冬休みに上記職員による特別授業を行い、高校生に対しエリトリアの文化についての講義と、エリトリア料理の試作も行なった。

エリトリアの文化紹介の活動は、2023年度には、高校生たちが、世界の「今」を学び、語学力の向上や多文化を理解する力を育てることを目的とした多文化理解授業「グローバルプロジェクトゼミ」として、学校法人国際学園の3学校（星槎国際高等学校八王子学習センター、同立川学習センター、同横浜鴨居広島学習センター）で、授業として展開した。この授業を通して、生徒たちはエリトリアやアフリカの歴史や文化について理解を深め、次世代がより良い関係を築くきっかけづくりをした。

エリトリアの食文化紹介活動に関しては、2023年度からは、さらに地元のイベントや星槎の文化祭・イベントなどでエリトリア風カレーを紹介した。毎回多くの方々に足を運んでいただき、エリトリア風カレーを味わっていただきながら、世界こども財団のスタッフがエリトリアと世界こども財団の活動を紹介し、アフリカ、エリトリアについて理解を深めていただき有意義な文化交流の活動のひとつとなっている。

出張授業・地域交流プログラムの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
出張授業・地域交流	国内	生徒および学校関係者、地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ・出張授業 2022年度より継続 ・文化祭出展（浜松） 2022年10月22日 ・特別授業（浜松） 2022年12月21日 ・グローバルゼミ（八王子・立川・横浜鴨居 GC） 2023年度通年 ・イベント出展（大磯市） 2023年6月18日、8月20日 ・文化祭出展（鴨居） 2023年10月28日、29日 ・文化祭出展（小田原かたうら縁日） 2023年11月4日 ・文化祭出展（八王子） 2023年11月19日 ・家庭科特別授業（小田原） 2023年12月21日
備考	【協働者（機関）】 一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

(6) JICA 横浜との協働による日系社会研修受け入れの実施

- ・JICA 横浜が推進している日系社会研修（主に南米の日本にルーツを持つ青年の日本での研修事業）に当財団のプログラム案が採択されたため、協働し研修生の短期受け入れを実施する。
- ・研修のテーマは「共感理解教育と日本文化」とし、星槎グループのネットワークを活用して各教育

機関での研修を実施するほか、日本文化を体感できるプログラムを盛り込み、1月に1ヶ月間の日程でブラジル連邦共和国より1名を受け入れた。

日系社会研修受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
日系社会研修	中南米における日系社会	研修参加者（1名）	2023年1月15日 ～2月15日
備考	【協働者（機関）】 独立行政法人国際協力機構（JICA）横浜、一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

- (1) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施、孤児達が将来自立できるようにする。
- 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めてきた。職業訓練をすすめる、当該工場での就業機会提供、孤児院自立運営に寄与することを目的として、世界子ども財団は両者の窓口として継続的に取り組んできた。
 - 工場の建設含め準備は完了していたものの、2020年度から2021年度にかけ、バングラデシュの縫製業組合からのライセンス発行等の遅れ、さらに新型コロナウイルスによるロックダウンなどが追い打ちとなり、三者での協議の結果、現地法人におけるビジネスとしての縫製業の継続は困難と判断した。現地法人の閉鎖手続きが完了していないため、世界子ども財団は引き続き両者の窓口としてサポートを行っている。

アグラサーラ孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児縫製職業訓練	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	縫製業は閉鎖の方向
備考	【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園		